



ミシン糸を  
深掘りしてみましょ  
アズマ株式会社 A.S.C.推進室 奈良 鶴木 隆嘉

洋服づくりに欠かせないミシン糸は、単なる消耗品ではなく、縫製品質を左右する重要な要素です。糸はミシンの経路を通過する際や生地を貫通する際に摩擦や引張りの力を受け、その張力や毛羽立ちの状態によつて縫い目の安定性が大きく変わります。ファラメント糸は光沢と強度に優れ、スパン糸は綿に近い風合いを持ち、それぞれ用途に応じて選ばれます。また、同じ「60番手」であつても基準が異なる場合があるため、針やテンションの調整が欠かせません。糸の特性を理解することは、パックリングや縫いシワなどのトラブル対策にも直結します。

講習会では、これらに加えて、熱で溶けて接着できる糸やステンレス糸、接着用糸、静電防止糸などの特殊糸についても紹介しました。糸は単に表に見えるだけの存在ではなく、機能性や縫いやすさを支える「裏方の主役」です。今後も縫製現場の工夫とともに、より良いものづくりに役立てていただければ幸いです。



6月14日、アズマ株式会社 3階 T SUKUROUに於いてワークショップに参加しました。体験希望者3名は京都麻織布より好みの色を選び、タックギヤザーパフスリーブ、ギヤザースリーブ、フレアスリーブの3型の中から選択しました。その後、型紙調整・裁断・工業用ミシンの操作・バキュームアイロンの使い方を学び、1日で涼しげで素敵なブラウスを仕上げることができました。

学んだポイントは、  
 ①後ろ明きの行つて来い始末  
 ②ギャザー袖の寄せ方  
 ③三巻器具の使い方  
 ④今風の肩回りと袖ぐり始末によるシルエットの再認識の4点でした。

参考になると話していました。各アトリエでも活かせる内容だったと思いまます。指導は佐藤、廣谷、リビで行いました。また、企画・場所・設備をご提供いただきましたアズマ株式会社様に心より感謝申し上げます。

5月29日・30日・31日の2泊3日、3人（小幡、白井、富澤）で、大阪に行つてきました。

一番の目的はフランス館に展示されているクリスチャン・ディオールの作品を見ることでした。私たち3人はディオール作品を研究しており、そのクオリティを確かめるための訪問でした。作品は少々デザインが異なつていましたが、とても参考になりました。

日本館、アメリカ館、フランス館、イギリス館などは大変人気があり、入場するには1時間以上並ばなければなりませんでした。<sup>160</sup>を超える国・地域、国際機関、さらに13の民間パビリオンが展示しており、大変賑わっていました。

何といっても一番の見どころは大屋根リングです。「多様でありながら、ひとつ」という万博の理念を表し、高さ12メートル、一周2キロの世界最大級の木造建築物です。

私たちも歩いてきましたが、上から見ると円の中心部は森になつており、散策ができました。夜には水辺でのアートクションもあり、噴水ショーやドローンで描かれる幻想的な絵を楽しむことができま

6月14日、アズマ株式会社 3階 T SUKUROUに於いてワークショップに参加しました。体験希望者3名は京都麻織布より好みの色を選び、タックギヤザーパフスリーブ、ギヤザースリーブ、フレアスリーブの3型の中から選択しました。その後、型紙調整・裁断・工業用ミシンの操作・バキュームアイロンの使い方を学び、1日で涼しげで素敵なブラウスを仕上げることができました。

学んだポイントは、  
 ①後ろ明きの行つて来い始末  
 ②ギャザー袖の寄せ方  
 ③三巻器具の使い方  
 ④今風の肩回りと袖ぐり始末によるシルエットの再認識の4点でした。

参考になると話していました。各アトリエでも活かせる内容だったと思いまます。指導は佐藤、廣谷、リビで行いました。また、企画・場所・設備をご提供いただきましたアズマ株式会社様に心より感謝申し上げます。

5月29日・30日・31日の2泊3日、3人（小幡、白井、富澤）で、大阪に行つてきました。

一番の目的はフランス館に展示されているクリスチャン・ディオールの作品を見ることでした。私たち3人はディオール作品を研究しており、そのクオリティを確かめるための訪問でした。作品は少々デザインが異なつていましたが、とても参考になりました。

日本館、アメリカ館、フランス館、イギリス館などは大変人気があり、入場するには1時間以上並ばなければなりませんでした。<sup>160</sup>を超える国・地域、国際機関、さらに13の民間パビリオンが展示しており、大変賑わっていました。

何といっても一番の見どころは大屋根リングです。「多様でありながら、ひとつ」という万博の理念を表し、高さ12メートル、一周2キロの世界最大級の木造建築物です。

私たちも歩いてきましたが、上から見ると円の中心部は森になつており、散策ができました。夜には水辺でのアートクションもあり、噴水ショーやドローンで描かれる幻想的な絵を楽しむことができました。

東京・渋谷でファッショントリビュートとともに「洋服に潜む危険性」と「服の構造の巧妙さ」をテーマに構成されました。一般的な展覧会とは、異なる視線からの見せ方で非常に興味深い内容でした。例えば、19世紀半ばに流行した「パリ・グリーン」は、とても鮮やかな緑色をしていました。

料にはヒ素が含まれており、着用者が中毒症状を起こす危険な色だったのです。

会場の入り口には、19世紀末の女性用乗馬服も展示されていました。当時の正式な乗馬スタイルは横乗りで、落馬の危険性が高いことが問題視されました。

さらに、乗馬時に足を隠すための極端に長いスカートは、そのままでは歩行が困難です。そこで内部のリボンによって形を調整できる仕組みが施されていました。

展示は約30体に及び、18～19世紀の婦人服や紳士服が並びました。この展覧会は11月末に「半・分解展 大阪」として開催予定です。皆様もぜひ、時代と「危険」を体感してみてください。

東京・渋谷でファッショントリビュートとともに「洋服に潜む危険性」と「服の構造の巧妙さ」をテーマに構成されました。一般的な展覧会とは、異なる視線からの見せ方で非常に興味深い内容でした。例えば、19世紀半ばに流行した「パリ・グリーン」は、とても鮮やかな緑色をしていました。

料にはヒ素が含まれており、着用者が中毒症状を起こす危険な色だったのです。

会場の入り口には、19世紀末の女性用乗馬服も展示されていました。当時の正式な乗馬スタイルは横乗りで、落馬の危険性が高いことが問題視されました。

さらに、乗馬時に足を隠すための極端に長いスカートは、そのままでは歩行が困難です。そこで内部のリボンによって形を調整できる仕組みが施されていました。

展示は約30体に及び、18～19世紀の婦人服や紳士服が並びました。この展覧会は11月末に「半・分解展 大阪」として開催予定です。皆様もぜひ、時代と「危険」を体感してみてください。



大阪・関西万博を見学して  
富澤三喜子（東京都）

高橋 里子（埼玉県）

DEATHファッション展  
高橋 里子（埼玉県）

東京・渋谷でファッショントリビュートとともに「洋服に潜む危険性」と「服の構造の巧妙さ」をテーマに構成されました。一般的な展覧会とは、異なる視線からの見せ方で非常に興味深い内容でした。例えば、19世紀半ばに流行した「パリ・グリーン」は、とても鮮やかな緑色をしていました。

料にはヒ素が含まれており、着用者が中毒症状を起こす危険な色だったのです。

会場の入り口には、19世紀末の女性用乗馬服も展示されていました。当時の正式な乗馬スタイルは横乗りで、落馬の危険性が高いことが問題視されました。

さらに、乗馬時に足を隠すための極端に長いスカートは、そのままでは歩行が困難です。そこで内部のリボンによって形を調整できる仕組みが施されていました。

展示は約30体に及び、18～19世紀の婦人服や紳士服が並びました。この展覧会は11月末に「半・分解展 大阪」として開催予定です。皆様もぜひ、時代と「危険」を体感してみてください。

職人の小技 ②

千田 芳江

絹穴糸で付けた鉗は取れやすいため白瀬顧問の実技による「確りとした鉗付け」の研修を受けました。

鉗付けでは、鉗穴と糸との相性が大切です。絹穴糸の穴には麻のツレデ糸が最適です。アイロンで糸の継ぎを整えメリケン短針4番で2本取り約40cmを用います。玉結びをし、鉗位置から0.5cm離れたところに針を刺して始めます。鉗付けは、鉗穴の形状に合わせて2回ずつ糸を通して、身頃の厚さ+0.2cm約0.7cmの脚を作ります。根巻きは鉗裏で縛つてからきつく巻き、途中で2回



A group of people in a classroom setting, likely a fashion design workshop, working on mannequins and discussing fabric.

令和7年5月11日、東京都台東区アズマ株式会社にて、文化学園大学非常勤講師の鹿島和枝先生をお迎えしてセミナーが開催されました。セミナーの前半は新原型の説明とデータ移動の展開説明と実習です。文化原型の改訂は、今回で8回目となるそうです。参加者による実習は1-2の原型を使用して、紙を切り開く方法と原型を回転させる方法を行いました。後半は「体型の違いによる補正方法の例」を、プロジェクターを使用して解りやすく説明されました。

前半、後半共に参加者から盛んな質疑応答があり、とても有意義なセミナーとなりました。

「フォローアップ技術向上セミナー」  
（文化新原型を使った展開操作と展開方法）

佐藤 悅子（東京都）

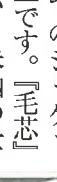
ラインを意識する想像力と、一つ一つの工程を丁寧に行なう大切さ、そして洋裁の奥深さを改めて感じた貴重な時間でした。

A photograph showing a row of five men's blazers displayed on a rack. The blazers are in different colors: dark blue, light beige, light blue, dark navy, and light grey. Each blazer is paired with a matching pair of shorts. The background is a plain, light-colored wall.

表地に毛芯を置き、大きな方巾の上  
でトントン叩きながら、織維同士が絡  
み合うようになります。立体を意  
識して生地を持ち、ハ刺しをしていく  
毛芯側から見るハ刺しの縫い目もさる  
事ながら、表地側から見た小さな縫い  
跡のなんとも言えない美しさ。まさに  
オーダーメイドの手仕事、職人技、ピツ  
タリくる言葉が見つかりませんが、一  
つ上の技術を見た！と思える細やかな  
手技でした。ジャヤ

寧にご指導いただいた後、「毛芯」の登場です。糊の付いていない毛芯をどのようにして生地に付けていくのか新しい経験にワクワクしました。

力開発センター足立校にて「オロ」アップセミナーが開催されました。私が参加したコースは、縫製コース「毛芯仕立てのジャケット」です。「毛芯」という未知の世



あり、今後の作品作にすぐ役立つ内でした。今回の講会は、技術的な学だけでなく、表現楽しさや奥深さをめで感じる貴重な会となりました。

最初に人体のバランスについての基本的な考え方や、重心移動の捉え方、具体的な例を交えながら丁寧に解説。さらにギヤザー やフレアーなどディテールの描き方、素材感を表現する工夫、色付けのテクニックに至るまで、多彩な内容を短時間に凝縮してご指導。「失敗から新しい発見が生まれる」という先生の言葉は、一同の心に強く残り、制作の励みとなりました。実践ではまず顔から描き始め、基準となるバランスを意識しながら棒の中で全体を仕上げていく練習を行いました。題材でも一人一人の描き方には個性があり、出来上がりの個性の違いがあり興味深い結果となりました。特に配色の付け方に関する先生のアドバイスには、新たな発見が

ワントポイントセミナー開催  
岡本あづさ先生のデザイン画の描き方  
広報部 高橋 里子

広報部 高橋 里子

REPORT  
No.74

## ものづくり・匠の技の祭典2025

池田 幸代（神奈川県）

第8回 ソーイングルーム石田  
生徒作品展・即売会を終えて  
土師由布子（大分県）

地区だより

支部だより  
2025年度前期研修会 報告  
塙原 奈月（千葉県）

千葉県日本洋装技能士会

塙原 奈月（千葉県）

日本のものづくりの伝統と、先端技術を広く紹介する祭典で、今年は記念すべき第十回目となります。

東京国際フォーラムの改修に伴い、会場を「東京都立産業貿易センター浜松町館」へ移し、令和7年7月25日（金）～27日（日）まで3日間に渡り開催されました。来場者は3日間で約3万6千人です。

オープニングでは副都知事のご挨拶の後、「匠」の文字をかたどった大型オブジェが披露されました。木工、畳、左官など各分野の職人が連携して制作したもので、近くで見るとその技術の緻密さがよくわかります。彩を添えるフラー・アレンジメントと共に、10周年に相応しい荘厳な演出でした。

初日にはサポーターの1人である、タレント・ゆうぢやみ氏も登壇し、若年層へのアピールも図られていました。

今回の会場は、2階から5階までのフロア構成となり、2階に衣・食・伝統文化ステージ、3階に住・茶室、4階に工・職業訓練・若者企画、5階に伝統工芸・北陸支援・全国ブースと分かれて展示され、各分野をじっくり見学しやすい構成だと感じました。



洋装協会としてはスマホケース作りやお人形さんの洋服製作体験を実施。体验を通じて感じたのは、針を持つ子どもたちの集中力の高さに気づくなど、実演の中で多くを学ぶ機会となりました。洋裁を伝える意義について、改めて考える機会となりました。

実演は1日目、高橋広報部長の「誰でも作れる簡単ベレー帽」、2日目、鈴木副理事長の「たたんで簡単ソーイング」、3日目、富澤マイスター会担当部長の「楽しいお袖の研究」です。間近で見る、洋裁の秘訣に、みなさん感心していました。



洋装協会としてはスマホケース作りやお人形さんの洋服製作体験を実施。体验を通じて感じたのは、針を持つ子どもたちの集中力の高さに気づくなど、実演の中で多くを学ぶ機会となりました。洋裁を伝える意義について、改めて考える機会となりました。

洋装協会としてはスマホケース作りやお人形さんの洋服製作体験を実施。体验を通じて感じたのは、針を持つ子どもたちの集中力の高さに気づくなど、実演の中で多くを学ぶ機会となりました。洋裁を伝える意義について、改めて考える機会となりました。

実演は1日目、高橋広報部長の「誰でも作れる簡単ベレー帽」、2日目、鈴木副理事長の「たたんで簡単ソーイング」、3日目、富澤マイスター会担当部長の「楽しいお袖の研究」です。間近で見る、洋裁の秘訣に、みなさん感心していました。

青葉が目にしみる五月十七日から十九日まで、生徒作品展・即売会を開催いたしました。

作品展示は二十八名、来場者は三日間で九十二名にのぼりました。テーマは「本物の服に出会う瞬間」。日頃から真摯に服作りに取り組んできた成果を披露する場となりました。

この日を心待ちにしていた来場者は、会員の友人・知人にとどまらず、広告を見て遠方から足を運ばれた方々もありました。会場では洋服の話題に限らず、さまざまなかわいがわい話が飛び交い、温かく賑やかな交流のひとときとなりました。出品された洋服は、丁寧な仕立てと上質な生地に加え、一点物ならではの魅力が光り、感嘆の声とともに次々と手に取られていました。

また、会員有志による昼食やお菓子は、参加者の胃袋と心を満たし、互いの絆を深める大切な時間ともなりました。会の開催には準備や運営など大変な面もありますが、会員の士気を高め、今後の製作への励みにもつながっています。

丁寧にご指導くださった講師の先生方に心より感謝申し上げます。



丁寧にご指導くださった講師の先生方に心より感謝申し上げます。

伝統工芸・北陸支援・全国ブースと分かれて展示され、各分野をじっくり見学しやすい構成だと感じました。



洋装協会としてはスマホケース作りやお人形さんの洋服製作体験を実施。体验を通じて感じたのは、針を持つ子どもたちの集中力の高さに気づくなど、実演の中で多くを学ぶ機会となりました。洋裁を伝える意義について、改めて考える機会となりました。

実演は1日目、高橋広報部長の「誰でも作れる簡単ベレー帽」、2日目、鈴木副理事長の「たたんで簡単ソーイング」、3日目、富澤マイスター会担当部長の「楽しいお袖の研究」です。間近で見る、洋裁の秘訣に、みなさん感心していました。



洋装協会としてはスマホケース作りやお人形さんの洋服製作体験を実施。体验を通じて感じたのは、針を持つ子どもたちの集中力の高さに気づくなど、実演の中で多くを学ぶ機会となりました。洋裁を伝える意義について、改めて考える機会となりました。

洋装協会としてはスマホケース作りやお人形さんの洋服製作体験を実施。体验を通じて感じたのは、針を持つ子どもたちの集中力の高さに気づくなど、実演の中で多くを学ぶ機会となりました。洋裁を伝える意義について、改めて考える機会となりました。

実演は1日目、高橋広報部長の「誰でも作れる簡単ベレー帽」、2日目、鈴木副理事長の「たたんで簡単ソーイング」、3日目、富澤マイスター会担当部長の「楽しいお袖の研究」です。間近で見る、洋裁の秘訣に、みなさん感心していました。

青葉が目にしみる五月十七日から十九日まで、生徒作品展・即売会を開催いたしました。

作品展示は二十八名、来場者は三日間で九十二名にのぼりました。テーマは「本物の服に出会う瞬間」。日頃から真摯に服作りに取り組んできた成果を披露する場となりました。

この日を心待ちにしていた来場者は、会員の友人・知人にとどまらず、広告を見て遠方から足を運ばれた方々もありました。会場では洋服の話題に限らず、さまざまなかわいがわい話が飛び交い、温かく賑やかな交流のひとときとなりました。出品された洋服は、丁寧な仕立てと上質な生地に加え、一点物ならではの魅力が光り、感嘆の声とともに次々と手に取られていました。

また、会員有志による昼食やお菓子は、参加者の胃袋と心を満たし、互いの絆を深める大切な時間ともなりました。会の開催には準備や運営など大変な面もありますが、会員の士気を高め、今後の製作への励みにもつながっています。

丁寧にご指導くださった講師の先生方に心より感謝申し上げます。